

■現況図1～3から読み取れる傾向について

以下、現況図1～3から読み取れる傾向についてまとめました。

○現況図1から読み取れる傾向

- 手賀川から手賀沼南岸、利根川までの区間は、水辺に自転車歩行者道がほぼ整備されつつあります。
- 手賀沼北岸では、断続的に遊歩道が整備されていますが、北柏ふるさと公園～手賀沼公園区間は水辺の路としての魅力に乏しい状況です。
- 柏市では、“道の駅しょうなん”以東の地域資源を一体的に活用した新しい観光・農業ビジネスモデルを構築する事業を展開しています。
- 史跡を多く残す我孫子市では、小範囲の複数のエリアで修景や整備が行われており、場所ごとに観光的価値を高める事業を展開しています。
- 印西市では、“ぶらり川めぐり”事業を主に手賀川の活用が展開されている状況です。

○現況図2から読み取れる傾向

- 手賀沼・手賀川周辺の主要な施設のうち、公共関連では、道の駅しょうなん、民間では、セブンパークアリオ柏と、柏市内の施設の集客力が突出して高い状況です。
- 我孫子市の水の館に農産物直売所やレストラン等が新設されたこと、柏市の道の駅しょうなんでも再整備が進められていることにより、今後は、手賀大橋を挟んだ2つのゾーンへの集客が増える可能性があります。

○現況図3から読み取れる傾向

- 今回のヒアリング調査で対象としたイベントは、市により規模の違いがありますが、手賀沼周辺では、我孫子市内が最もイベント数、集客規模が大きい傾向にあります。我孫子市では、手賀沼公園、手賀沼親水広場の周辺で特に多くのイベントが行われています。このことから、JR柏駅周辺やつくばエクスプレス沿線を抱える柏市や千葉ニュータウンを抱える印西市に比べ、我孫子市は、手賀沼の存在が大きく影響していることがうかがえます。
- 柏市で行われているイベントでは、柏ふるさと公園や道の駅しょうなんを拠点とするスポーツ系イベントが多い傾向がみられます。なお、図には表れていませんが、手賀沼フィッシングセンターでは、民間事業者が実施する、手賀沼を活用したエコ関連の小規模イベントが育ちつつある状況です。
- 印西市の手賀川周辺で行われているイベントでは、木下駅南骨董市が最大の集客規模を持っています。このような集客力あるイベントと、手賀川活用の核となっている“ぶらり川めぐり”との連携が実現すれば、相乗効果が見込める可能性があります。

4. 手賀沼・手賀川活用を進める上での視点の整理

■視点の整理

- これまで見てきたような手賀沼・手賀川周辺地域の現況や特性をふまえて、今後さらなる活性化の取り組みを進めていきますが、その際には現況や取り組み施策を点検、評価していく必要があります。
- このため本項では、今後、取り組みを進める上でポイントとなる視点、取り組みの方向性(基本となる考え方)、事業検討上のチェックポイントなどについて整理します。

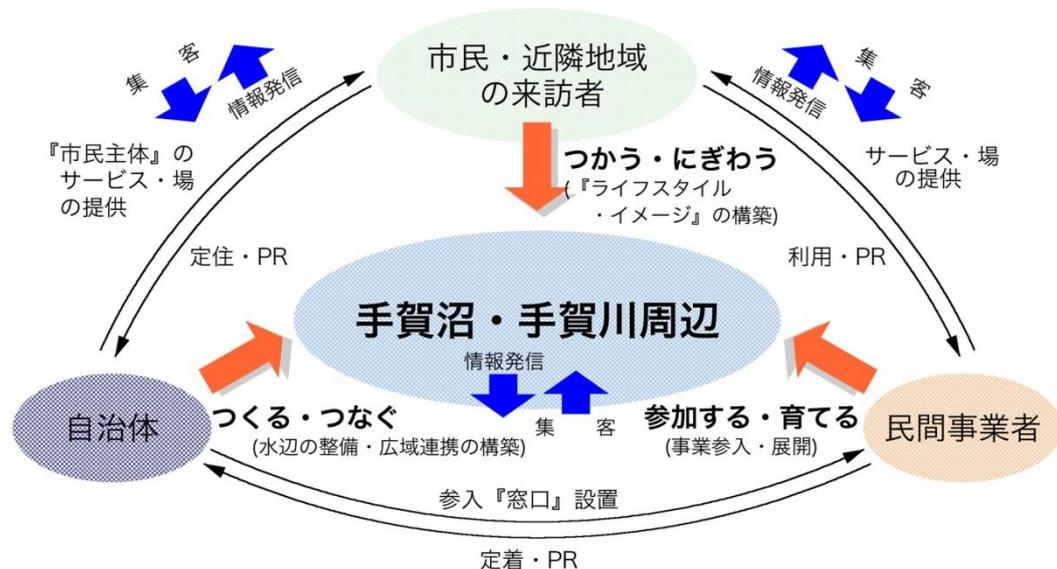
考察1：3つの視点

■3つの視点から手賀沼・手賀川の“現況”を点検する必要性

手賀沼・手賀川の活用と地域活性化の推進には、

- A. 水辺を利用し、にぎわいを創出する「市民・来訪者」
- B. 水辺に点在する様々な観光資源、組織・団体や人をつなぎ、基盤となる沿路やインフラを整備する「自治体」
- C. 水辺の活用に事業参入し、育てる「民間事業者」

の三者が関連を持つことが必要となります。そこで、第2項で提示した目標実現に向けて、手賀沼・手賀川周辺で展開する計画・事業を、三者の視点から点検していく必要があります。



図：3つの視点で見た手賀沼・手賀川の活用イメージ

〈手賀沼・手賀川の活用と地域活性化を推進する3つの視点〉

A. 市民・来訪者（＝利用者）の視点で水辺の

“つかう・にぎわう”を点検する。

B. 自治体（＝都市計画・まちづくり）の視点で水辺の

“つくる・つなぐ”を点検する。

C. 民間事業者（＝観光・ビジネス）の視点で水辺の

“参入する・育てる”を点検する。

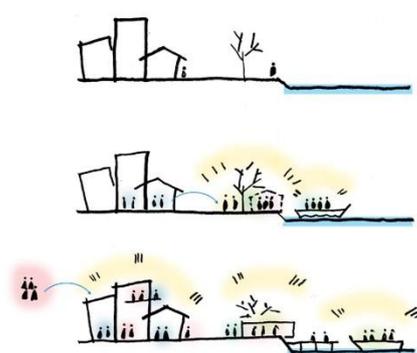
考察2：視点から導かれる取り組みの方向性

■市民・来訪者の視点（視点A）から導かれる取り組みの方向性

『市民主体』と水辺を活用した持続可能な『ライフスタイル・イメージ』の構築

大規模集客拠点の利点を活かした大都市圏の“水辺づくり”と異なり、手賀沼・手賀川周辺では、長期にわたって利用の中心となる市民の方々や近隣地域の来訪者等、生活者層のニーズに応えた『市民主体』の“にぎわいづくり”から始め、地域固有の“にぎわい”情報の発信と新規事業の誘致を重ねながら、最終段階として地域外からの集客につなげる手法が適していると考えます。

同時に現時点では市民の方々や近隣地域の来訪者が、手賀沼・手賀川の水辺を活用した持続可能な『ライフスタイル・イメージ』を構築する場や機会を提供することも重要と考えます。



〈創生期〉

ライフスタイル・イメージの構想化 →

『市民参加』『生活者目線』の拠点づくりと情報発信

〈成長期〉

市民・近隣居住者を中心とする

“満足度UP”と“にぎわい”の獲得。

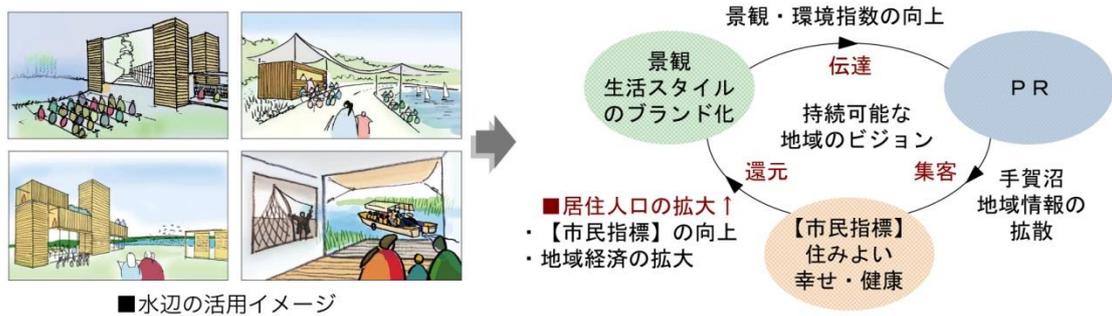
水辺利用者からの情報発信。→ 集客エリアの拡大

〈成熟期〉

ライフスタイル・イメージのブランド化

→ 集客から定住へ

図：『市民主体』の“にぎわいづくり”から始める水辺の活用イメージ



図：持続可能な『ライフスタイル・イメージ』の構築モデル

■自治体の視点（視点B）から導かれる取り組みの方向性

・手賀沼・手賀川地域の将来を見通す柔軟な『ソフトづくり』

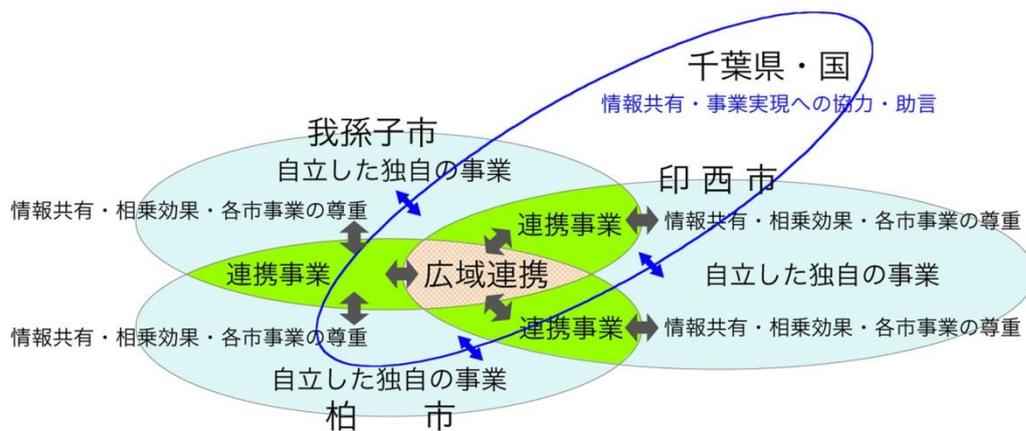
一概に手賀沼・手賀川地域と言っても場所ごとの特性は大きく異なります。こうした“多様性”は地域全体の魅力である一方、拠点ごとに孤立すれば、整合性を感じられないバラバラな印象となってしまいます。これでは折角の魅力が活かせないままになってしまうことから、自治体の視点が示す指針のひとつは地域に“点”在する多様な「場所」（＝観光資源・事業計画）を“線”として結びつける『ソフト』の工夫と考えます。

ここでいう『ソフト』とは、目に見えない“情報”レベルのつながりから、実際の遊歩道・水上交通網の整備、活用メニューの開発、観光トイレやサインのデザイン統一といった“物理的”つながりや既存・新規イベントの共催・運営組織間の協働といった“人的”つながりまでを含み、地域全体の一体感・統一感を高める各階層での展開が考えられます。

・各自治体の独自性を担保したバランスの良い『広域連携の体制づくり』

手賀沼・手賀川の一体感、ブランドイメージを創出するため、手賀沼・手賀川に接する3市および千葉県や国の機関との“広域連携”は重要と考えます。ここで意図した“連携”とは、自立した各自治体が互いを尊重しながら相互に補完し合うイメージであり、“連携”によってプロジェクトの進行が鈍化したり、相互に干渉し合ったりするようでは意味がありません。

一方で、情報共有に基づいた“連携”関係を持たないことで、事業内容が重複したり、競合が発生したりすることも地域全体のマイナスです。手賀沼・手賀川地域全体が多様性を活かした魅力的な水辺と認知されるには、地域全体がバランス良く活性化される必要があります。そして、そのためには、各自治体が自立・対等の立場で運営される『広域連携の体制づくり』が課題となります。



図：手賀沼・手賀川の水辺の活用に関する『広域連携』イメージ

■民間事業者の視点（視点C）から導かれる取り組みの方向性

・民間事業者の参入を促進する『窓口の明確化』と

参入のヒントを提供する『情報提供・情報共有の場の設置』

例えば、水辺のカフェや水上スポーツに関連した施設の整備、舟運事業など、民間事業者にとって、事業参入できれば魅力的な事業が多くあります。一方で、河川敷地の利用に関する法規制が複雑だったり、自治体側の対応窓口が不明確だったりするなど、事業者にとっては参入へのハードルが高い印象があります。今後、民間事業者のより積極的な参入を促進していくのであれば、『窓口の明確化』や『情報提供・情報共有の場の設置』が必要となります。

考察3：12の点検項目の設定

以上のような「取り組みの方向性」をふまえ、以下では、3つの視点ごとに手賀沼・手賀川地域における活性化の取り組みを点検するための項目を設定します。

A. “つかう・にぎわう” ための点検事項

【キーワード】

- ・『市民主体』から集客へ
- ・水辺を活用した持続可能な『ライフスタイル・イメージ』の構築

【点検事項】

1. 水辺利用者の多様な利用目的に対応した機能を備えているか？

2. 利用者が水辺で交流する場所はあるか？
 3. 水辺には行きやすいか？
 4. 水辺とその周りの観光資源との連携はスムーズか？
 5. 水辺は歩きやすく、安全で楽しい場所か？
-

B. “つくる・つなぐ” ための点検事項

【キーワード】

- ・水辺の将来を見通す柔軟な『ソフトづくり』
 - ・バランスの良い『広域連携の体制づくり』
-

【点検事項】

6. 水辺のデザインは、一体性やブランドイメージを持っているか？
 7. 実施している事業は、その場所の特性・独自性を発揮するものとなっているか？
 8. 行政間のスムーズな連携は図られているか？
 9. 舟運事業など水辺の移動手段は魅力的か？
 10. 地域の情報は外部に発信されているか？
-

C. “参加する・育てる” ための点検事項

【キーワード】

- ・民間事業者の参入を推進する『窓口の明確化』
 - ・参入のヒントを提供する『情報提供・情報共有の場の設置』
-

【点検事項】

11. 民間参入を推進する『窓口』は設置されているか？
 12. 参入のヒントとなる『情報提供・情報共有の場』はあるか？
-